



# 健夏山笠 「追い山」



終盤にさしかかり、「勢い水」を浴びて最後の力を振り絞る「北大黒流」(上)

今年が一番山笠は「緑幸流」。スタート直後、本部前で「祝いめでた」を歌いました(右)



初日の一番の見せ場である芦別健夏山笠の「追い山」。今年も3本の山が出場し、沿道を埋めた観客からの熱い声援を受けながら、市内を勇壮に駆け抜けました。このタイムレースを制したのは「栄流」

7月20日と21日の2日間にわたって開催された星の降る里・芦別健夏まつり。両日とも晴天に恵まれ、大勢の人でにぎわいました。まつりのハイライトを写真で振り返ります。

# 熱く 勇壮 華麗に 芦別健夏まつり



国設芦別スキー場の斜面から打ち上げられた花火。今年はレーザー光線と音楽との競演



# 千人踊り

市内の企業や各団体などがこぞって参加しての千人踊り。それぞれ思い思いの衣装や仮装など工夫をこらして、観客を楽しませました。また、芦別中学校の生徒も大勢参加して若さをアピールするなど、文字通り1000人を超える踊りの輪ができました



STVラジオの「Yo! Hey! サンデー!」の公開生放送が行われ、芦別子供太鼓がオープニングを飾りました

## 元バレーボール全日本代表の朝日さんが芦高生などを指導

7月3日、男子バレーボールの全日本代表やビーチバレー日本代表として活躍した朝日健太郎さんの指導によるバレーボール教室が星槎総合研究所体育館で開催されました。

朝日さんは現役引退後の現在、早稲田大学大学院の平田竹男教授のゼミでスポーツ科学を学んでいます、星槎グ

ループの宮澤保夫会長と平田教授の親交が縁で開催されたもので、芦別高校女子バレーボール部の6人と道都大学バレーボール部の17人が参加しました。

教室で朝日さんは、「チーム内でのコミュニケーションづくりを大事に」などとアドバイス。約2時間にわたって熱心に指導しました。



## ファイターズ観戦ツアーに芦別から88人が参加

7月6日、プロ野球北海道日本ハムファイターズの応援観戦ツアーが札幌ドーム球場で行われ、市内の小学生と保護者44組88人が参加しました。

今年ファイターズ応援大使に選ばれた芦別市などを対象に、球団からの招待で実施されたもので、この日はオリックス・バファロー

ズとの対戦。試合前には、芦別市応援大使の矢貫俊之選手と参加者が記念撮影したほか、試合中は球場のオーロラビジョンに参加者の紹介や芦別市のコマーシャルが放映されました。試合はファイターズが敗れましたが、盛んに応援した皆さんは「よい思い出になりました」と楽しんでいました。



## カナダ派遣の中学生4人が決定

芦別市の姉妹都市であるカナダ・シャーロットタウン市への派遣中学生4人が決まり、7月6日から研修が行われています。この事業は、カナダでの交流を通じて市内の中学生の国際的視野を広げるために2年に1度行われているもので、今年は、9月26日から11日間の日程で行われます。

派遣されるのは、啓成中学校の齊藤美涼さん、野口実結希さん、芦別中学校の篠田百花さん、土田実侑さん。研修では、英語力の向上や安全に旅行するための知識を学びますが、4人は、「カナダの文化を学んだり、現地の人たちと交流したりするのが今から楽しみです」などと話していました。



左から中本純一芦別市国際交流協会会長、齊藤さん、篠田さん、土田さん、野口さん、引率のデミアン・オケイン市国際交流員

## 「花のワルツ」のイメージを絵にワークショップ開催

8月24日に開催される芦別120周年・市制施行60周年記念「北の音楽隊 オーケストラと大冒険」の関連事業として、絵本作家・そらさんの指導によるワークショップ「音楽と絵の不思議な冒険」が7月13日、市民会館中ホールで開催されました。

これは、音楽を聴いて頭に思い浮かんだ風景などをさまざまなことを絵

に描いてみようというもので、小学生など31人が参加。チャイコフスキー作曲の「くるみ割り人形」から「花のワルツ」を聴き、まず一人ひとりが画用紙に自由に描いたほか、昼3枚分ほどの大きな紙に全員が思い思いの絵を描きました。出来上がった絵は、8月24日の演奏時にステージで発表されます。

